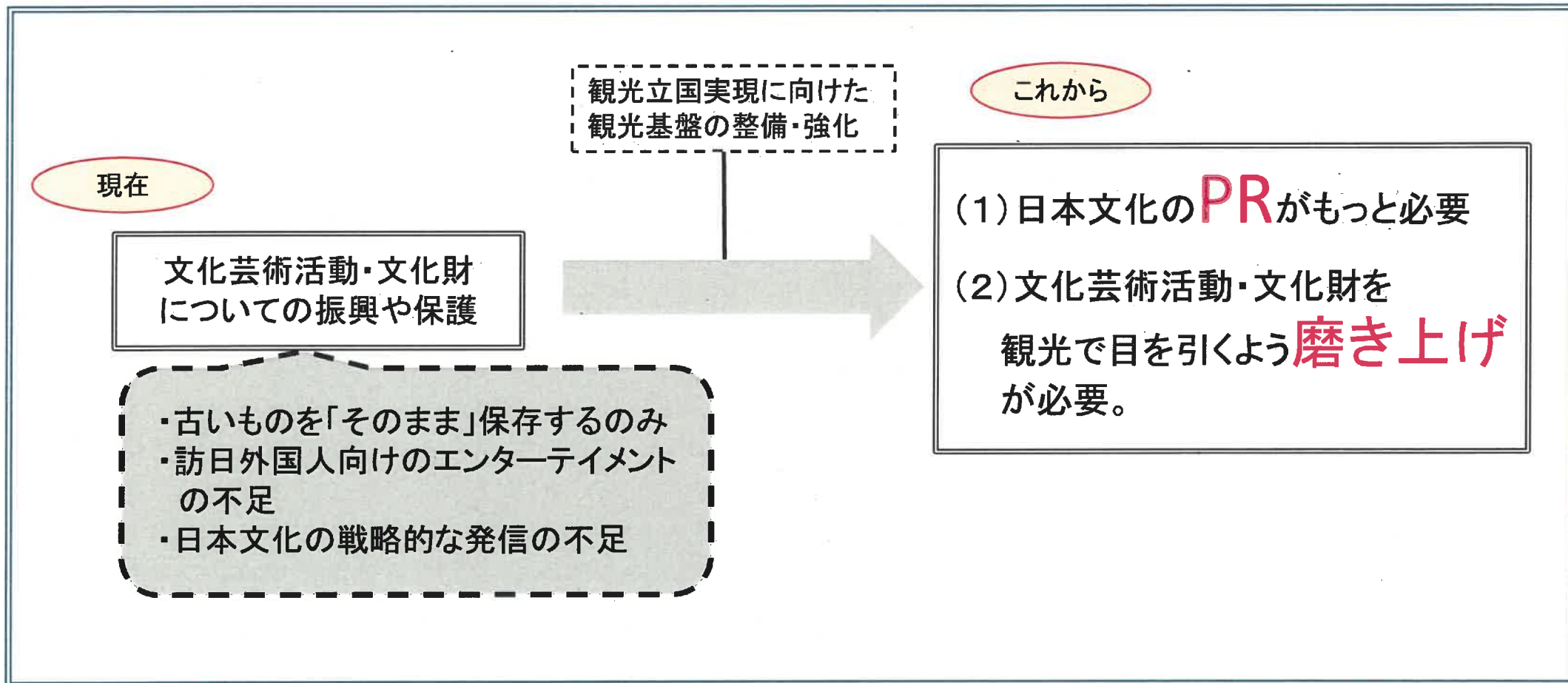


文化財の観光資源としての開花

文化庁



“文化”を最大限活用して、観光立国の実現を目指す

①文化財の先進的・高次元な多言語解説整備の推進

日光東照宮における多言語解説整備

- 全世界から多数の観光客が集まる日光東照宮の主な文化財について、平成29年度中にモデル的に多言語解説整備を実施
- 「文化財に関する国際発信力強化の方策について」(H29.9)等を踏まえ、日本語解説を単に直訳するのではなく、外国人にとって分かりやすい魅力的な解説文となるよう、表現を工夫して新たに整備。(解説板23基)

～新たに整備した解説板を読む外国人観光客～



眠猫



重要文化財
奥社宝塔(御墓所)

今後の取組予定

- 「文化財多言語解説整備事業」(H30年度:5億円)において先進的・高次元な文化財の多言語解説を整備する事業を平成30年度より開始
- 分かりやすい多言語解説整備推進委員会の運営など、事業の全工程にわたり観光庁と連携して実施

～AR・VR等の先端技術の活用～

観光庁
コンテンツ作成(新規予算)

分かりやすい多言語
解説整備推進委員会

文化庁
先進的・高次元な整備(新規予算)
+案内板等の整備(既存予算)



日光東照宮の他、二荒山神社や輪王寺等、日光地域全体の面的整備を観光庁・環境省と連携して実施
今後2020年度までに文化財中核観光拠点200箇所を中心に整備

②文化財を活用した「Living History」(生きた歴史体感プログラム)の創出

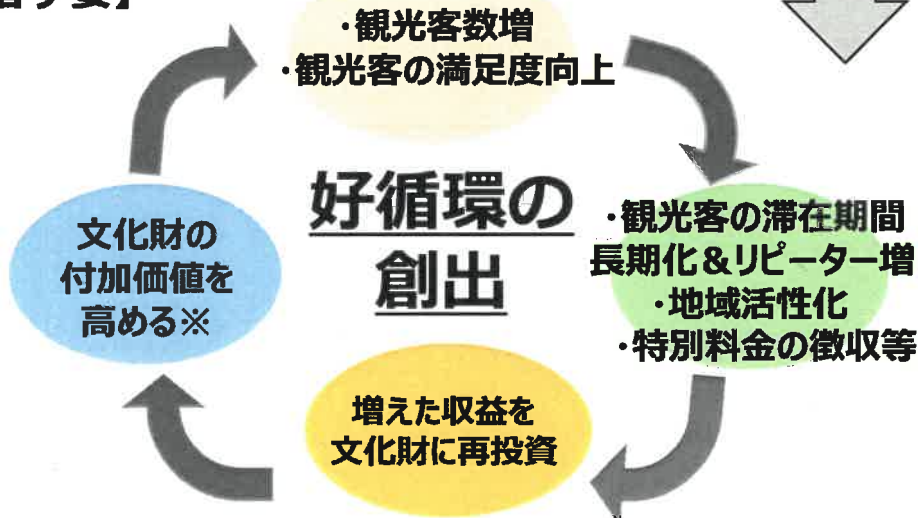
「Living History」とは？

- ① 文化財の付加価値を高める…観光客が体感・体験できるよう、歴史的な出来事や当時の生活を再現
 - ② 好循環の創出…文化財を核として賑わいを創出し、増えた収益を文化財の修理・整備や新たな企画に再投資
- 観光資源としての
更なる磨き上げ

【現状・課題】

- ・必ずしも観光客にとって往時が分かりやすい形で公開されていない
- ・民間事業者と連携しつつ、文化財の所有者・管理団体等が自律的に文化財の修理・整備を行うモデル作りが必要

【目指す姿】



※ 文化財建造物や史跡等において、往時を再現した復元行事・歴史体験行事の実施、当時の調度品・衣装等の展示等

今後の取組予定

- 先行的な取組事例の収集
自治体における先行的な事例の収集・周知
- 文化財保護法の改正 ※今国会で審議中
地域における文化財の総合的な保存・活用を制度的にも担保

(イメージ1) 三重県明和町における取組 ～「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」における歴史体験～



斎王の食事を再現した
「斎王の宝箱」(1,600円)

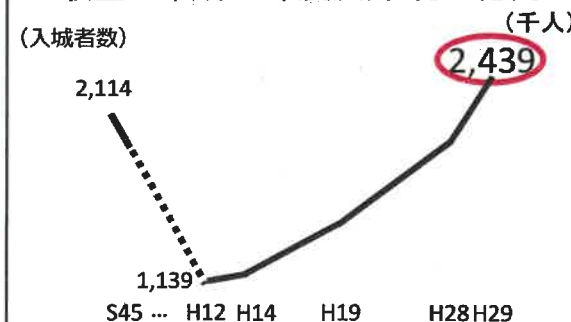
「斎王まつり」(6月上旬)



十二単の着付け体験 (約5,500円)

(イメージ2) 二条城における取組

平成28年度、第3代将軍徳川家光による後水尾天皇への饗応を再現
 入城者数：平成29年度、47年ぶりに過去最高の入城者数を更新
 収益：平成24年度決算 約9億円 → 平成29年度見込 約14億円



(H31年度以降～)

事例の横展開を目指し、新たに取り組む自治体等に対する支援スキームの創設